

共産党インターナショナル執行委員会の  
活動に就いて

同委員イルヘルム・ベイクの報告

演説に基き一九三五年八月一日に採擇された

共産主義インターナショナル第七回全世界

大會の決議

一、共産主義インターナショナル第七回全世界大會は  
共産主義インターナショナル執行委員会の政策及実  
践活動を承認する。

二、共産主義インターナショナル第七回全世界大會は  
一九三三年三月、一九三四年十月、一九三五年四月附の第  
ニインターナショナル各国支部及第二インターナショナル指  
導部に宛てた共産主義インターナショナル執行委員会  
のフアツシズム、資本の攻勢及戦争に反対する闘争  
に於て行動を統一すべしと云ふ呼掛けを承認する。  
是等の全ての提議が第二インターナショナル執行委  
員會及第二インターナショナル各国支部の大多數に依  
り労働者階級の利益に及し拒否された事に対し責  
任の意を表明し、既に社會民主主義労働者及社會  
民主主義的諸組織の多くが共産主義者と相提携  
しフアツシズムに反対し労働大衆の利益の爲に闘つて  
ぬると云ふ事實の歴史的意義を認め、共産主義イン  
ターナショナル執行委員及共産主義インターナショナル

共産主義インターナショナル執行委員会  
活動に就いて  
同志らイルヘルム・マ・デイノの報告

演説に基き一九三五年八月一日に採擇される  
共産主義インターナショナル第七回全世界  
大會の決議

一 共産主義インターナショナル第七回全世界大會は  
共産主義インターナショナル執行委員会の政策及実  
践活動を承認する。

二 共産主義インターナショナル第七回全世界大會は  
一九三五年二月、一九三四年十月、一九三五年四月附り第  
二インターナショナル各回支部及第二インターナショナル指  
導部に宛てた共産主義インターナショナル執行委員会  
のファッレスの演説及戦争に反対する闘争  
に於て行動を統一すべしと云ふ時掛けを承認する。  
是等、全マク提議が第二インターナショナル執行委  
員會及第二インターナショナル各回支部の大多數に依  
り労働階級の利益に及し拒否された事に対し違  
憾の無き表明し、既に社會民主主義労働者及社會  
民主主義的諸組織の多くが共産主義者と相提携  
し、ラッパを共に及対し、労働大衆の利益、為に闘争マ  
ぬる事、事實の歴史的意義を認め、共産主義イン  
ターナショナル執行委員及共産主義インターナショナル

No. 1

に加盟してゐる全ての党に対し今後凡ゆる手段を盡し国内的及國際的規模に於いて統一戦線を設定する事に努力すべき責務を課する。

三、共産主義インターナショナル第七回全世界大會は、社會民主黨員を含む一般労働大衆に対する共産黨の活動及スローガンの革命的影響が増大した、ある事を確認する。この觀<sup>ニ</sup>兵<sup>ト</sup>よりして本大會は共産主義インターナショナルの凡ゆる支部に対し社會民主主義労働者に接近することも妨げてゐるセクト主義的傳統の残滓を最近期間に克服し、宣傳及煽動の方法に大衆の直接的必要と日常の利益とを併結した極めて具體的な方面を加味し、今まで屢々見られた抽象的な大衆には接近し難い性格を帯びてゐた宣傳煽動の手段を変更する事を命令する。

四、共産主義インターナショナル第七回全世界大會は共産主義インターナショナルの多くの支部の活動に次の如き大きな欠陥を認め、「統一戦線術実施の遅延、政治的、経済的性質を帯びた個々の要求を繞つて動員する事の無能力ブルジョア、デモクラシーの残存物の防禦に對する斗争の必要を理解しない事、各殖民地及從屬諸國に於いて反帝國主義民族戦線結成の必要を理解しない事、改良主義的及ファツシヨ的労働組合及ブルジョア諸黨により創設された労働者の大衆組織内に於ける活動の輕視、女子勤学者の間に於ける活動の過小評



價、農民及都市の小ブルジョア大衆の間に於ける活動の意義の過小評價並びに執行委員會の是等の支部に対する政治的支援の遅延革命化しつつある大衆の運動を指導する任務を持つ共産党の役割を責任が全般的に加筆しつつあること、各支部そのものに日常斗争の指導を集中する必要があることを考慮して共産主義インターナショナル第七回全世界大會は共産主義インターナショナル執行委員會に次の諸項を提議する。

A. 自己の活動の重点を世界労働運動の基本的な政治的及戰術的指導原理の決定に移しつつ、凡ゆる問題の決定に際しては個々の國の具体條件並びに特質を考慮する事又は原則として共産党の内部組織的事件には直接干渉する事を避ける事

B. 急激な変動の発生に際し共産党が共産主義インターナショナル大會及共産主義インターナショナル執行委員會の決定を基礎とし共産主義運動の政治的戰術的任務の正しい決定を迅速に独立的に爲し得る様に共産党における要員及真のボリスエウイキ一の指導者の養成と教育を組織的に援助する事

C. 政治上の敵とのイデオロギー上の斗争に於いて共産党に有効な援助をなす事

No. 3  
D. 自己の經驗と同様に世界の共産主義運動の經驗を共産党が利用し得る様に援助する事但し其の際或る國の經驗を他の國に機械的に移したり具体



的をマルクス主義的分析を定型や一般的公式を以て取  
替ふ事は避けねばならない。

E. 共産主義インターナショナルの指導的機関と共産主義  
インターナショナル支部とのより緊密な提携を共産主義  
インターナショナル執行委員会の日々の業務に共産主義  
インターナショナルの最も重要な支部の權威ある代表を  
一層積極的に参加せしめる方法によつて確保する事

五. 共産主義インターナショナル第七回全世界大會は共  
産青年同盟も共産党も青年の間に於ける大衆的活動  
の重要性を過少評價してゐる事實並に多數の國々に  
於て斯の如き活動の不活躍な事實を認め共産  
主義インターナショナル執行委員会及國際共産青年同盟  
執行委員会に対し多くの共産青年同盟の組織中に  
見られるセクト主義的孤立性の克服の爲有効な方  
策を採択する様提議し、共産青年同盟員に対しフル  
ジョア民主主義的改良主義的及びファリスト的諸党  
及宗教団体により組織された勤労青年の大衆的(労  
働組合的、文化的、スポーツ的)組織に加はり及軍国主  
義化及強制労働組織化の斗争と労働者の物質条件  
の改善、勤労青年の権利の擁護の斗争とに青年を  
動員し、この目的を以て凡ゆる及ファリスト青年組織  
の廣範を統一戦線を結成して、上述の諸組織内  
於て一般青年大衆に感化を與へる様組織的斗争を  
行ふ事を命ずる。

的をマルクス主義的分析と定型や一般的公式を以て取  
替ふ事は避けられざるなり

五、共産主義インターナショナルの指導的機関と共産主義  
インターナショナル支部とのより緊密な提携を、共産主義  
インターナショナル執行委員会の曰々の業務に共産主義  
インターナショナルの最も重要な支部の權威ある代表を  
一層積極的に参加せしめよう方法によつて確保する事

五、共産主義インターナショナル第七回全世界大会は、共  
産青年同盟と共産党と青年の間における大衆的活動  
の重要性を過少評價し、その事実並に多数の国に  
於いて斯う如き活動の不活潑な事実を認め、共産  
主義インターナショナル執行委員会及国際共産青年同盟  
執行委員会に対し多くの共産青年同盟の組織中に  
見られるセクト主義的孤立性、克服が為有効な方  
策を採択する様提議し、共産青年同盟員に対しカル  
ビニア民主主義的、改良主義的及びファシスト的諸党  
及宗教団体により組織される勤労青年の大衆的(学  
術組合的、文化的、スポーツ的)組織にかけり、反軍国主  
義化、反強制労働組織化の斗争と労働者の物質條件  
の改善、勤労青年の権利の擁護の斗争とに青年を  
動員し、この目的を以て月由る及びファシスト青年組織  
の廣範な統一戦線を結成して、上述の諸組織内に  
於て一般青年大衆に感化を興へる様組織的斗争を  
行ふ事を命ずる。

六、共産主義インターナショナル第七回全世界大會は最近數年間にソ聯邦に於ける社會主義の勝利、資本主義諸國に於ける恐慌、ドイツフランスの狂乱及全世界に新たに發生した戦争勃発の危険の影響により廣汎な労働者一般労働大衆が改良主義から革命的斗争に孤立分散より統一へと轉回を開始した事を強調する。共産主義インターナショナル第七回全世界大會は、社會民主黨の個々の指導者及び対があるにも拘らず行動の統一への労働者の努力が今後とも増大するであらう事を考慮し、共産主義インターナショナルの全支部に対し資本の攻勢、フランス、新たな戦争の危険に及対するプロレタリアートの統一戦線及全労働者の人民戦線結成の爲の斗争の過程に於て自己の戦刻の今後強化と労働階級の大多数を共産主義の側へ獲得とに自己の注意を集中する事を提議する。

No. 65

七、共産主義インターナショナル第七回全世界大會は成熟し、ある政治的危機のプロレタリア革命の勝利への轉換の成否は廣汎なプロレタリア大衆内に於ける共産黨の勢力及影響、共産黨員のエネルギー、及獻身のみかかるとものである事を指摘する。多くの資本主義諸國に於て政治危機が熟してゐる現在、共産黨員の最も重要な決定的課題は、現在達成した成功に満足する事を、新たな成功に向つて前進を續け、労働階級との連繫を拡大し、數百万労働大衆

六、共産主義イデオロギーの中心として、第二次世界大戦以後の  
 近数年間に於ける、聯邦に於ける、社会主義の勝利、資本主  
 義諸國に於ける恐慌、ドイツ、フランス等の、組織及全世界に於  
 ける、全生一の戦争の勃発、危険の影響により、廣くは労働  
 者一般、労働者階級の改良主義から、革命的斗争に、挑立  
 け、取上り、遂に、この轉回を、開始した、事、強調する、共産主  
 義イデオロギーの中心として、第七回、全世界大會議は、社会民主主義の  
 指導者、及び、対峙するものにも、拘り、行動の、統一、の、勤労者  
 の努力、が、今後とも、増大する、事、あり、事、考慮し、共産  
 主義イデオロギーの中心として、この、全支部に、対し、資力の、攻撃、及び、  
 及び、新、石、を、戦争の、危険に、対峙する、が、い、れ、り、る、事、  
 統一戦線及、全勤労者、の、人民戦線、結成、の、為、と、斗争の、  
 過程に、於て、自己の、戦利、を、金、を、強、化、と、勤、労、階、級、の、大  
 多數と、共、産、主、義、の、側、へ、の、獲得、と、い、ち、を、己、の、注、意、を、集、中、  
 する、事、を、提、議、す、る、

六、共産主義イデオロギーの中心として、第七回、全世界大會議は、  
 威嚇、の、一、つ、ある、政治的、色、樣、の、プロパ、ン、ダ、の、や、り、革命、の、  
 勝利、の、轉換、を、成、否、は、遠、況、を、示、し、て、い、れ、る、事、大、衆、の、  
 是、れ、に、共、産、主、義、の、勢、が、及、影、響、を、受、け、る、事、を、覚、悟、し、て、  
 自、身、の、身、體、の、力、を、こ、ろ、こ、ろ、と、あ、げ、る、事、を、提、議、す、る、事、  
 資本主、義、諸、國、に、於て、政治、的、危、機、が、熟、し、て、い、る、事、を、提、議、す、る、  
 共、産、主、義、の、勢、を、重、要、な、法、的、的、課、題、に、現、在、に、提、議、す、る、  
 威、嚇、の、一、つ、ある、事、を、新、石、を、成、功、に、向、つ、て、提、議、す、る、  
 共、産、主、義、の、勢、を、提、議、す、る、事、を、提、議、す、る、事、を、提、議、す、る、

No. 6

Defence Doc. 1530

の信頼を獲得し、共産主義インターナショナル支部を大衆  
的党に変轉せしめ、共産党の勢力下には勤労階級の大多  
數を獲得し、斯くしてプロレタリア革命の勝利の爲に必  
要な條件を確保する事である。

(終)

Dyname Doc 1530

の借入を獲得し、共産主義の中心としてこの党の支持を大衆  
的党に支持する。共産党の勢力をこの党に集中し、大衆  
的党を獲得し、斯くてプロレタリア革命の勝利を確保す  
るべき条件を確保する事である。

(2)

Ref. Doc #1530

On the activities of the Executive Commission of Comintern.

The Resolution adopted by the 7th Whole world Convention of Comintern on August 1st, 1935, being based on the reporting address of Comarade Wilhelm Pieck:

1. The 7th Whole World Convention of Comintern agrees to the policies and practical activities of the Comintern Executive Commission.
- II. The 7th Whole World Convention Comintern agrees to the appeals for unity of activities in struggles against Fascism, aggression of capital, and war, made by the Comintern Executive Commission to the branches of the 2nd International in various countries and the Guidance Section of the 2nd International in March of 1933, October of 1934, and April of 1935. The Convention expresses regret at all these proposals having been rejected, against the benefit of working class, by the 2nd International Executive Commission and a greater majority of the branches of the 2nd International in various countries; and recognizing the historical meaning of the fact that many Social Democratic workers and parties are already fighting, in cooperation with the Communists, against Fascism and for the benefit of labouring masses, imposes on all the parties, joined in the Comintern Executive Commission and Comintern a duty to endeavour to employ all possible means for establishing a united front on a national and international scale.
- III. The 7th Whole World Convention of Comintern confirms that there is an increase in revolutionary influence of the activities and slogans of the Communist Party upon general labouring masses including the members of the Social Democratic Party. From this point of view, the Convention orders all the branches of Comintern to overcome as soon as possible the lingering sectarian tradition which hinders their approach to social-democratic working men, to add the most concrete elements connected with the direct requirements and daily benefit of masses to the method of propagandas and agitations, and to alter the often repeated means of propagandas and agitation being abstract and inaccessible to masses.
- IV. The 7th Whole World Convention of Comintern finds the following serious faults in the activities of many branches of Comintern:

Delay in enforcing the united front tactics. Impotence in <sup>for</sup> mobilization concerning each ~~of the~~ <sup>having</sup> demands of political and economical nature. Unrecognition of the necessity of a struggle against the remaining rampart of bourgeois democracy. Unrecognition of the necessity of forming the anti-Imperialism national front in colonies and subjected countries. Ignorance of the activities in the mass organizations established by the melioristic and Fascist working men's associations and bourgeois parties. Underestimation of the activities in working women. Underestimation of the meaning of the activities in the rural and urban petit-bourgeois masses. Prolongation of political assistance by the Executive Commission to all these branches. Taking it into consideration that the <sup>task</sup> ~~part~~ and responsibility of the Communist Party, which should lead the revolutionizing masses' movements, are becoming more important as a whole, and that it is necessary to concentrate guidance of daily struggle on each branch itself, the 7th Whole World Convention of Comintern makes the following proposals to the Comintern Executive Commission:

- A. To consider the concrete conditions and characteristics of different countries in deciding all the subjects, while shifting the center of gravity of its own movements to the decision of the fundamental political and strategical working principles of the international labour movements. To avoid, in principle, direct interferences with affairs concerning the internal structure of the Communist Party.
- B. To give systematic assistance to the training and education of important members and true Bolshevist leaders of the Communist Party so that the Communist Party may promptly and independantly make correct decisions based on the decisions made by the Convention of Comintern and the Comintern Executive Commission, in case of occurrence of sudden changes, regarding the political and strategical <sup>a</sup> ~~task~~ of the communism movements.
- C. To give effective assistance to the Communist Party in its ideological struggle against its political antagonists.
- D. To assist the Communist Party so that it may make use of the experience of international communism movements as well as its own ones, on the condition that mechanical application of a country's experiences to another country and replacement of concrete Maxian analysis <sup>r</sup> ~~by~~ <sup>with</sup> formality or general formula should be avoided.

E. To secure closer co-operation of the branches of Comintern, by making authoritative representatives of the most important branches of Comintern participate more positively in daily work of the Comintern Executive Commission.

V. Recognizing the fact that both the Communist <sup>Young</sup> Youngmen's Union and the Communist Party underestimate the importance of mass-movements among young men, and also the fact that such movements are inactive in a great many countries, the 7th Whole World Convention of Comintern suggests that the Comintern Executive Commission and the <sup>International Communist Youngmen's</sup> Profintern Executive Commission should take effective measures to overcome the sectarian isolation which is found in many Communist Young men's Union, and orders that the members of the Communist Youngmen's Unions should join popular organizations (of labour union, culture, and sports) of working young people formed by bourgeois democratic, melioristic, and fascist parties and religious bodies, <sup>should</sup> mobilize young people for struggles against imperialization and organization of enforced labour, and for struggles for improving material conditions of labourers and protecting the rights of working young men, and <sup>should</sup> carry on systematic struggles in the above organizations in order to influence general young masses, by forming, for this purpose, an extensive united front of all the anti-fascist youngmen's organizations.

VI. The 7th Whole World Convention of Comintern emphasizes that great many workers and general labouring masses have begun turning from meliorism to a revolutionary struggle, and from isolatory dispersedness to unity, owing to the influences of recent years' victory of Socialism in Soviet Union, depressions in capitalistic countries, frenzy German Fascism, and a danger of outbreak of war which has taken place all over the world. Considering that the efforts of working men toward unity of the movements will continue to increase in spite of the objections made individually by the leaders of the Social Democratic Parties, the 7th Whole World Convention of Comintern makes to all the branches of Comintern <sup>a proposal</sup> that, in a process of struggles for forming the proletariat united front and the general popular front against <sup>the</sup> aggression of capital, Fascism, and the danger of <sup>a</sup> new war, they should concentrate their attention on the future strengthening of their own ranks and on securing the majority of labour-class to the side of Communism.

VII. The 7th Whole World Convention of Comintern points out that conversion of a developing political crises into the victory of the proletariat revolution depends only upon the power and influence of the Communist Party in the extensive proletariat masses, and upon the energy and devotion of the members of the Communist Party. In these times of a developing political crisis in many capitalistic countries, the most important decisive problem imposed on the members of the Communist Party is to continue to advance toward a new success without being satisfied with the hereto attained success, increase their connections with labour class, acquire the trust of millions of working masses, convert the branches of the Communist International into popular parties, procure the majority of working-class under the influence of the Communist Party, and thus secure conditions necessary for the victory of the proletariat revolution.

4 D.O. 1530

no 1

共産党インターナショナル執行委員  
會の活動に就いて

同志ウイールヘルム・ペイクの報告

演説に基き一九三五年八月一日に

採擇された共産主義インターナシ

ョナルオセ回全世界大會の決議

一 共産主義インターナショナルヨナルオセ回全世界

界大會は共産主義インターナショナルヨナルオセ回全世界

員會の政策及実践活動を承認する。

WW 1530

102

二、共産主義インターナショナル  
 界大會は一九三三年三月、一九三四年十月、一九  
 三五年四月附のオニインターナショナル各  
 支部及びオニインターナショナル指導部に宛て  
 た共産主義インターナショナル執行委員會の  
 ファッシズム、資本の攻撃<sup>勢</sup>及戦争に反対する  
 闘争に於て行動を統一すべしと云ふ呼掛けを  
 承認する。是等の全まの提議がオニインターナ  
 ショナル執行委員會及びオニインターナショナル  
 各支部の大多數に依り労働者階級の利益

WW 1530

103

に及こ拒否されたるに對し遺憾の意を表明し、  
既に社會民主主義労働者及社會民主主義的諸  
組織の多くが共產主義者と相提携し、アシズ  
ムに及對し勤労大衆の利益の爲に闘つてゐる  
と云ふ事實<sup>の</sup>歴史的意義を認め、共產主義イン  
ターナショナル執行委員及共產主義インター  
ナショナルに加盟してゐる全ての黨に對し今  
後凡ゆる手段を盡し國內的及國際的規模に於  
いて統一戦線を設定する事に努力すべき責務  
を課する。

三、共産主義インターナショナル第七回全  
 世界大会如、社会民主党員を含む一般労働大  
 衆に對する共産党の活動及スローカーンの革命  
 的影響が増大しつつある事を確認する。この  
 親身よりして本大会は共産主義インターナシ  
 ヲナルの凡ゆる支部に對し社会民主主義労働  
 者に接近するのとを妨げておるセクト主義的  
 伝統の残滓を最短期間に克服し、宣伝及煽動  
 の方法に大衆の直接的必要と日常の利益とを  
 聯結した極めて具体的な方面を加味し、今ま

5

で屢見らるる抽象的、大衆には接近し難い  
性格を帯びてゐるに宣伝、煽動の手段を變更す  
る事を命令する。

四 共産主義インターナショナル第七回全共

界大会は共産主義インターナショナルの多く

の支部の活動に次の如き大まか欠陥を認め

て統一戦術綱領実施の遅延、政治的、経済的

性質を帯びる何々の要求を緩つて動員する事

の無能力、ブルジョア・プロクラエーションの残存

物。防衛的、斗争の必要を理解しない事。

↓

各殖民地及従属諸国に於いて反帝国主義民族戦線結成の必要を理解し、いさ、改良主義的及びファシズム的労働組合及びブルジョア諸党により創設せしむる勤労者の大衆組織内に於ける活動の整現、女子勤労者。間に於ける活動の過小評價、農民及都市の小ブルジョア大衆の間に於ける活動の意義の過小評價並に報行委員会のは等の支部に對する政治的支援の遠近、革命化しつつある大衆の運動を指導する任務を持つべき是等の役割を責任加全般的に

加<sup>二</sup>重<sup>一</sup>加<sup>二</sup>重<sup>一</sup>の指導を集中するの必要のあることを考慮  
 して、共産主義インターナショナル第七回全  
 世界大会は共産主義インターナショナル森行  
 委員会に次の諸項を提議する。  
 A. 自己の活動の重点を世界労働運動の基本  
 的政治的及戦術的指導原理の決定に移しつ  
 つ、凡ゆる問題の決定に際しては何々の国の  
 具体的条件並に特質を考慮する事、又原則  
 として共産党の内部組織的事件には直接干渉

第8.

可<sub>レ</sub>事<sub>ヲ</sub>遊<sub>レ</sub>け<sub>ル</sub>事

B. 急激な変動の発生に際し共産党が共産主義イニシアチブに於て執行委員会が共産主義イニシアチブに於て執行委員会が決定を基礎とし共産主義運動の政治的・戦術的任務の正しい決定を迅速に独立的に爲し得る様に、共産党に於て、要員及び其のやりこみ手キ一的指導者の養成と教育を組織的に援助すること

C. 政治上の敵とのイデオロギイ上の斗争に於て共産党に有効な援助をなす事

D. 自己の至駿と同様に世界の共産主義運動  
 の至駿を共産党が利用し得る様に援助する事  
 、但し其の際或る国の至駿を他の国に機械的  
 に移したり具体的小マルクス主義的命採を定  
 型や一般的公式を以て取替ふ事は避けぬ所  
 らふい  
 E. 共産主義インターナショナルの指導的機  
 関と共産主義インターナショナル支部とのよ  
 り緊密な提携を、共産主義インターナショナ  
 ル執行委員会の日々の業務に共産主義インター

一、十一月十日、最の重要の文部、權威あり代  
 表を一層積極的に参加せしめる方法によつて  
 確保すべし  
 五、共產主義イニターナショナルズ第七回全  
 世界大会は、共產青年同盟の共產党の青年の  
 間に於ける大衆的活動の重要性を過少評價し  
 ておる事實並に多数の國々に於ける斯の如  
 き活動の不振は事實を認め、共產主義イ  
 ニターナショナルズ執行委員会及國際共產青年  
 同盟執行委員会に対し多くの共產青年同盟の

WHL 1530

11

組織中に見らるるセクト主義的孤立性の克服  
 の爲有効な方策を採択する採提議し、共産青  
 年同盟員に對しガレシヨミア民主主義的、改良  
 主義的及びフアリスト的諸党及宗教団体によ  
 り組織上の反動若青年の大众的（労働組合的  
 ・文化的）不和一的組織に加はり、<sup>反</sup>軍國  
 主義化、反階級労働組織の<sup>化</sup>斗争と労働者の物  
 質条件の改善、若労働者の権利の擴張の斗争  
 とに青年を動員し、この目的を以て凡ゆる反  
 フアリスト青年組織の廣泛な統一戦線を達成

一、上野の清田殿内に於て一般青年大衆に  
 感化を以て招徠的の事を行ふ事をも命ずる  
 六、其を主我イニターナシタルカ七回全  
 世界大会は、最近数年同様に聯邦に於ける社  
 会主義の勝利、資本主義諸國に於ける恐慌、  
 ドイツのアナキズムの狂乱及全世界に新に於  
 生したる戦争勃発の危険の影響により廣汎に勞  
 働者、一般勤勞大衆が改良主義から革命的斗  
 争に、孤立分散より統一へと行回を開始した  
 事を強調する。其を主我イニターナシヨナル

第七回全青界大会は、社会<sup>民主</sup>主義党の仰々の指  
 導者の反対があるにも拘はらず行動の統一へ  
 の勤労者の努力が今後とも増大するものあらう  
 事を考慮し、共産主義イニターナショナルの  
 全支部に対し資本の攻撃、ファシズム、新た  
 らぬ戦争の危険に反対する、ワロシタリヤとトの  
 統一戦線及び全勤労者の人民戦線結成の爲の斗  
 争の過程に於て自己の戦列の今後の強化と勤  
 労階級の大多数を共産主義の側への獲得とし  
 自己の注意を集中する事を提議する。

14

七、共産主義我インターナショナル第七回全  
 世界大会は成熟しつつある政治的危機の加  
 レタリヤ革命の勝利への野望の成否は廣汎に  
 加レタリヤ大衆内に於ける共産党の勢力及  
 影響、共産党員のエネルギー又献身の計か  
 かのもの由ある事と指摘する。多くの資本主  
 義諸国に於て政治危機が熟してゐる現在、共  
 産党員の最も重要な決定的課題は、現在達成  
 した成功に満足する事なく新なる成功に向つ  
 て前進を続け、勤労階級との連繫を拡大し、

1530

15  
4

数百万勤労大衆の信頼を獲得し、共産主義イ  
 ンターナショナル支部を大衆的党に変容せし  
 め、共産党の勢力下に勤労階級の大多数を獲  
 得し、斯くしてソロレタリヤ革命の勝利の爲  
 に必要の条件を確保する事がある

(終)